すぎなみ大人"熟"してる？

Jukusiteru？ TIMES'13

VOL.4

平成２５年７月１日発行
発刊元：塾熟出版（事務局）
東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317－6621　FAX 3317－6620

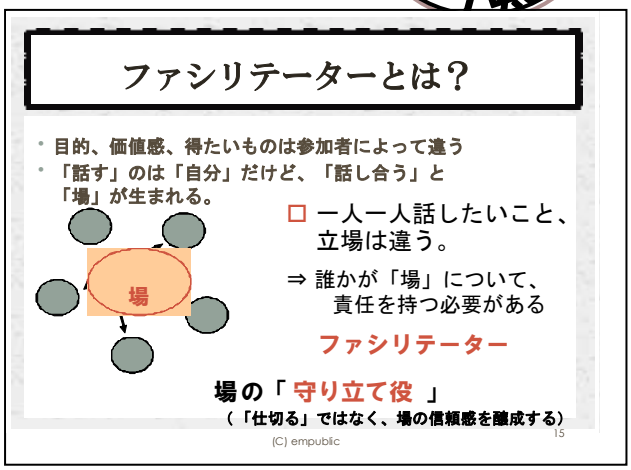
7月6日
土曜コース

ファシリテーションを学ぶ

ファシリテーターは場の守り(もり)立て役！

■よい対話を行うために工夫することは？

盛りだくさんの講座のスタートは、前回の対話をふりかえりから。その過程にどういう意図が隠されていたのかが、明かされた。受講生にはちょっと不評だったメンバーがころころ変わったことも、実は「知の他家受粉」であったことなどがわかり、納得。また、この講座の特徴である「書いてみせること」も、「すぐ対話に入ってしまうと、人の発言にひきずられやすくなる。まず自分で考えて書くことが大事。さらにそれを発表するので、必ず全員が答えを示すことになる」ことが目的であることも理解できた。受講生からも、このやり方は「いいね！」という感想が多かった。



模造紙に、シートに書き書き

■ファシリテーターの役割

「対話」の場を盛り上げ、進めていくのがファシリテーターだ。参加者がここで自由に発言していいんだ！と信頼を寄せられるような場を作り、議論を深めていくのがファシリテーターの役割である。

筆者が特に印象に残ったのが、受講生からの「議論についていけない人を救う意味はあるのか？」という、超現実的な質問に対する広石さんの答えだ。「議論についていけない人がメンバーにいるという存在価値を認めましょう。中間まとめで、その理由を聞き、全員で共有することを確認するチャンスです。ファシリテーターは、一人ひとりの経験や考えには『価値がある』と信じていないとできないのです。」なるほど。スキルと同時に、その場を信じ、人を信じるのも重要な役割ということなのだ。

■よい対話を増やし、悪い対話を減らすことがファシリの目的

いよいよ実践。まずはファシリテーターを各チームで決めて、①よい対話とは？悪い対話とは？②ファシリってどこが難しい？③ファシリが上手になるには？を模造紙に書き出してみた。役割として初めて場を任された受講生は、皆の協力を得て、たくさんの答えが引き出せた。同時に、「自分のやり方」の工夫もでき、第一歩を踏み出した！

■次回に向けて、「問い」を考える

次回はいよいよ「対話」の実践だ。まず、問いの例を見ながら、「自分が問いかけてみたい問い」を考えた。そして次回の対話の「問い」提供者を決定、それも12名が挙手で！その潔さに、筆者も感動～。着実に哲学は始まっている。ワクワク次回の「対話」が待ち遠しい♪（湊）

◆皆から出された「良い対話」の代表的な要素

・共感が得られる　・前向き　・肯定感がある・全員が参加し、発言している　・人の話を聞いている　・思ったことが口にできる　・心地よい疲労感　・新しい発見がある　・楽しくて深い　・キャッチボールができる　・テーマからそれない　・実践的な会話　・終わった後に違うテーマがでる　・否定から入らない　・違いを認める　・協力的な姿勢　・盛り上がる　・人格を否定しない　ほか

だがしや楽校を開こう！

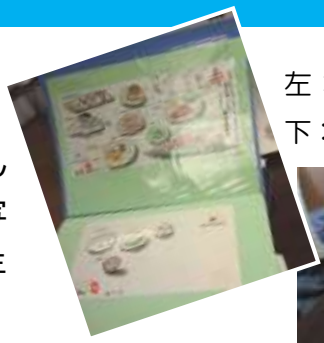
「私、こんなモノ持ってま～す！」

6月17日 月曜コース

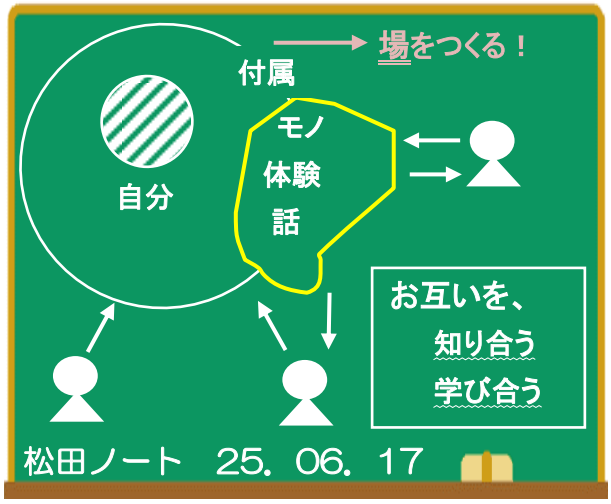
持ちより・分けっこ談義（分かち合いの体験学習）

◆みんなでカルタはいかが？

「みなさん、すぎなみ詩歌館カルタってご存知ですか？」と、谷原さんのこんな言葉から始まった今回の講座。これは、なんとすぎなみ大人塾の卒業生が制作したご当地カルタなのだ（写真上）！松田さんの味わいある声で読まれるカルタに受講生のみなさんは大興奮！



左：旅先の料理絵カード
下：韓国茶（コーン茶）とその看板



◆持ち味は自分を形づくる付属品

前回、「次は自分の“持ち味”を持ち寄ろう」と呼びかけたところ、さまざまな“持ち味”が持ち寄られた。例えば、韓国が大好きな受講生は、韓国茶をふるまったり、旅行が趣味な受講者は旅行先で食べた料理を描いたカードを見せて思い出を語ったり。そんな空間・時間をより良く見せるのが自分みせの看板だ。

次のシーンはこの看板づくりでの印象的な一場面。ある受講生が、看板に持ち寄った物の名前だけ書いていたところ、それを見た別の受講生が「私、趣味で絵を描いてるから、その絵を描いていいかしら」と話しかけていた。（完成看板：右上写真）

自分の“持ち味”を通して他者と関わるとき、そこにはその“他者の持ち味”ともつながり、新たなものが生まれることができる。上記の看板づくりがいい例だ。このことについて「お互いの持ち味を通して知り合うことで、自分を形づくる付属品である持ち味を、互いに工夫する余地が生まれます。そして互いに工夫することから学び合いが始まるのです。」と松田さん。工夫する余地のある《学び合いの場》をいかにつくるか、「互いに」がキーワードだ。（坂）

上：手作り木工の額ぶちです！
左：タブレット端末でピアノを弾いてます

≪コラム≫だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。
卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。
「この人と一緒に何かしたい！」という方は事務局まで！

1 回目は、21 年度～23 年度のだがしや楽校を卒業された、宮崎圭子さん。今では、地域のイベントでフェルト工芸などを持ち味に活躍されているこの方も、きっかけはだがしや楽校でした。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは？

❒「だがしや楽校」は不思議な場所

坂本（以下、坂）：「最近の様子を教えて下さい」

宮崎（以下、宮）：「**最近は 23 年度の楽友に絵手紙を教えてもらって、その後のランチを楽しんでいます。**」

坂：「あなたにとって、だがしや楽校とは？」

宮：「**だがしや楽校で知り合った方々は、年齢や経験してきたことは違いますが、気取らず心を開いて仲良くなれるので、とても不思議です。**」

坂：「読者に向かってひとことどうぞ！」

宮：「**私の出来る小さな事も、みんなと一緒にすれば大きな事になっていきます。一緒に楽しみませんか？**」

◆すぎなみ大人"熟"してる？の発行にあたって◆
この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。